平成30年11月発行 第40号 発行：京都府立林業大学校（隔月発行）

京林大だより

No.40

絵：卒業生 熊走君

2年生、キャップストーン研修で研鑽

キャップストーン研修は、林大の授業では学ぶことができない、より実践的な能力を向上させることを目的に、様々な分野の業務に取り組んでおり、就職を前にしたこの時期に行っています。

2年生16人が、平成30年9月3日から11月2日までの研修期間（実質37日間）に森林組合や林業事業体、NPO法人など27の事業体(府内：18、府外：9)の御協力をいただき、間伐や風倒木の処理などの森林整備、森林の調査、製材、木製品の加工、更には森林環境教育などを体験しました。

学生にとっては、技術面だけでなく、社会人としての仕事に対する姿勢など、現場の方から直接指導していただく大変貴重な機会となりました。

卒業まで残り約4ヶ月ですが、この研修で学んだことを糧に有意義な学生生活を送ってほしいものです。

最後になりましたが、キャップストーン研修に御協力いただいた事業体の皆様、大変お世話になりありがとうございました。

伐採技術の実地指導

高性能林業機械の点検

森林土壌の調査

住宅用材料の製作

ツリークライミングのイベントで子供の指導

第3回『林大祭』を開催します！

林大生・職員と地域や林業関係者の皆様との親睦や交流を目的に、今年も「林大祭」を開催します。

木を使ったゲームや模擬店など、お子様にも楽しんでもらえるコーナーもありますので、ご家族お揃いで林業大学校へお越しください。

- 日 時：12月２日(日)10時～16時
- 場 所：京都府立林業大学校
- 内 容：模擬店、木工体験と販売、チェーンソーアート実演、森のアトラクションなど

昨年の様子

今月の授業参観

『伐木造材実習2』

伐倒作業の中でも最も危険な作業の一つであるかかり木の処理を、安全に行なう方法を習得する実習です。

先ずはかかり木にならないよう正しい手順で伐倒することが大切ですが、かかり木になってしまった場合は、安易な対応は避け、安全を第一に処理をするように指導しています。

専用の道具を使い、株を持ち上げたり、木を回して処理をしますが、寒い山中でもかかり木と格闘すると額から汗が流れ落ちるくらいになります。

かかり木を回す準備中

校長室より

韓国から見学者、三十数名様

校長　只木良也

10月9日、京都林大へ韓国咸陽林大主宰の林業ツアーの一行三十数人のお客様。関西空港着、まず京都林大へ。

京都林大側対応は、校長の歓迎挨拶、副校長の概要説明の後、実習棟など施設案内。

私は、「アンニョン・ハセヨ」と挨拶を切り出し、古代の日本文化は、何かにつけて朝鮮半島のおかげで発展し、それは林業においても同じと、こんな例を挙げました。

京都には太秦(うずまさ)というところがあって、今は映画村で有名ですが、1500年前は朝鮮渡来人の社会として栄え、ここにある広隆寺というお寺は日本最古の寺、その本尊の弥勒菩薩像は国宝第1号ですが、材料はアカマツで、韓国産だとのこと。

また、神話の神様須佐之男命（すさのおのみこと）は、朝鮮へ渡って林業を勉強し、クスノキを持ち帰ったとの話もあります。

そんな大先輩の国から、大勢のご視察、感謝いたしますと、歓迎の挨拶。

そして、日本林業の現状を概説しました。

ご来訪の方々、ある程度のご年配、自ら林業を営む人も含んで、林業問題に関する論客も多く、挨拶・説明の後の質疑の時間には、韓国語・日本語飛び交う論議は、盛り上がりました。

勿論通訳を介してですが、話題は、日韓共通の話題としての林業の在り方、今後の森林行政の進め方、間伐等の技術論から、二酸化炭素と森林問題にも及びました。

二酸化炭素に関しては、先進各国が、削減目標を明示した「京都」議定書のことも、勿論よくご存知でした。

視察の予定は、関西中心の役所、施設などらしいのですが、林大の翌日は、南丹市日吉町の林業現場とのこと。

韓国咸陽林大一行の、実り多い旅、期待してます。

アンニョンヒ カセヨ。

編集・発行 京都府立林業大学校 〒629-1121 京都府船井郡京丹波町本庄　TEL.0771-84-2401　FAX.0771-84-0797
ホームページ：http://www.pref.kyoto.jp/kyorindai/　E-Mail: kyo-rindai@pref.kyoto.lg.jp